

令和4年度 第1回中津川市総合計画推進委員会 主な意見

日時：令和4年4月28日(木) 15:00～16:00

場所：中津川市役所 4階大会議室

議事1 令和4年度総合計画推進委員会の進め方について

・事務局より

【資料1】令和4年度総合計画推進委員会の進め方について」により説明

・主な意見

令和4年度の事業評価方針、事業評価テーマ、各部会の構成は【資料1】に記載のとおりと決定

議事2 市民意識調査について

・事務局より

「【資料2】中津川市アンケート調査票」により説明

・主な質疑・意見

・前回の市民意識調査から具体的にはどのように変わったのか。
→市の進めている施策に対して、市民が満足しているのか不満なのか、併せて今後の必要性について評価をいただいて、平成25年の時にプロットしたものがどのように動いたのかを把握する項目を追加したいと考えております。

・前回のアンケート回収率はどの程度か。
→令和2年度調査で60%ほどでした。

・前回の調査ではインターネット回答と郵送の回答とどちらが多かったか。
→前回調査での要望を基に、今回初めてインターネット調査を導入させていただいております。

・項目ごとのニーズ調査は、各項目で典型的な具体例があると、より実感として掴めるのではないか。例えば単にリニアを生かした観光の振興について質問されても、必要とは考えるだろうが、具体的に何を指しているのか分かりづらいという気がする。
→次回の調査がいつになるか確定はしておりませんが、次期総合計画の際には同様にアンケート調査を行うことを考えておりますので、その際には対応できるように検討したいと思っております。

議事3 後期事業実施計画の体系について

・事務局より

「【資料3】体系図案」により説明

・主な意見

・横断施策には何が入ってくるかについて、考えがあるか。
→横断施策につきましては、国の総合戦略がございますので、そちらをベースとさせていただきたいと考えております。具体的には、多文化共生やDX、デジタルトランスフォーメーション、ゼロカーボンシティ、地球温暖化の関係、SDGsの考え方、そういったすべての施策の中で意識して取り組まなくてはいけない、横断的な意味合いのものを考えております。

・本委員会で言うべきことなのか迷うところだが、リニアがどうなるのかというところで、大分変わってくることもある。例えば駅前の周辺整備をしなくてはならないが、もしかしたらその開業時期を遅らせることでメリットがある可能性もあると思う。

それまでの間の社会環境などが変わって、もしリニアの完成が伸びたときに、一度そこで見直すというか、延ばした形で計画をした方が、より市にとっては、メリットが大きいかわからないかを判断しなくてはならない。計画どおりの27年で完成したほうが良いという判断もあるだろうし、延ばした方が、もしかしたら後の環境により適用しやすくなるということがあるとすれば、それを担保しておく。それが決まったときに、見直すということを入れても良いのではないかと思うがどうか。

→今の総合計画は令和8年、2027年までをベースに、リニア開業の令和9年に合わせて作られています。今おっしゃられるように延びる可能性も十分ある中で、今の総合計画が切れる周期になっておりま

すので、そこで当然見直しを行います。おそらくもう数年たてば、何年頃に完成するということが示されると考えておりますので、次の総合計画の中で、その要素を取り入れて次の総合計画の期間をどうするか、そこで調整をしたいと考えております。それに伴ってまたそれを支える実施計画を作っておりますので、その期間をどう調整するか、もしかしたら、次期総合計画は、前半部分は整備をメインで、後半部分に、そのまちづくりをメインでというような考え方になるかもしれない。まだ少し分かりませんが、見直しのタイミングはそこであるのではないかと考えております。

議事 4 後期事業実施計画の基本施策及び指標について

・事務局より

「【資料 4】後期事業実施計画案【基本施策】」「【資料 5】施策・事業一覧」により説明

・主な意見

・数値目標について、目標値は最終年度の令和 8 年度となっているのですが、途中の中間目標などは作成しないのか。例えば令和 5 年、6 年、7 年はどうなっていくなど、その目標と実績との検証はされているのか。

→実施計画として表に出すのがこの状態なのですが、内部的には当然、5、6、7、8 と 4 年間それぞれの目標を持ちます。事業評価を行うにあたり、推進委員会の場でお示しさせていただいて、進捗状況の報告できればと考えております。

・この最終目標値とは何を基にして作られるのか。いろいろな施策があるので、それぞれによって差があると思うし、策定の仕方も違うと思うが。

私は、よく、「できる数字」を目標にすると言われるので、参考までに留意いただきたい。

→施策の目標値については、各部署でそれぞれ考えるものになります。その設定の方法として、まず、現在なんらかの根拠を元に目標値が建てられていれば、それに反しないように目標をたてるという方法があります。又は、方法論として、今後こういう数字になっていくというようなトレンドを用いる方法、このまま何もしなければこういう数字になるというものを、過去から推測して伸ばして、その数字に何らかの市の施策の力を加えることによって、増減させるというように設定する方法があります。例えば、合計特殊出生率について、すこし簡略的に言いますと、人口推計として毎年 100 人ずつ減っていくとして、市の施策で一定数その数字を軽減することができるのであれば、令和 8 年度には本来なら、この 400 人減っているところを目標として 350 にするという方法があります。他の方法としては、例えば今中津川市のリサイクル率について、数字が分からないので仮に 50%とさせていただいて、なにもしなければ、大きく変動しないところですが、市の施策としてリサイクルに力を入れるという部署の強い思いがあって推し進めるというのであれば、例えば県下一位の数字を目標値とするような方法があります。そのように各部署それぞれの考え方で目標値を定めるように、庁内で協議をしながら目標値を設定しています。

・この問題について、市の目標は数値評価しやすいものと、し難いものがある。自分は教育に関わってきて、例えば心を育てることは、何を根拠にできるのか、何点なら育ったなど、そのようにはできないものもあるので、そこを考えていくと目標値はなかなか難しい。そのため、どこか一つの典型的なものを取り出すしかないのかなと思う。

→市の業務となりますと、どうしてもそういった抽象的なもの、全市民の方の満足度など、測るのが難しいものを目指すこととなってしまいます。そのため、ご指摘のとおりその指標探す、指標を組み立てるということに今回一番苦慮しております。

・そういう意味では、目標値が出てきたときに、こういう基準を元にして決定したというバックボーンがわかっているのかなと思う。

→そのために設計図として今回初めて取り組ませていただいたのが資料 5 です。こちらを設計図として、今まで明確な設計図がなく設定していた目標や事業をいわゆる根拠を伴った政策としてくみ上げていきます。理屈にはなるのですが、目指すべきところがまずありまして、それに資する事業をくみ上げて行く。そこがしっかり組み上がっていれば、仮に事業に素晴らしい結果が出ていても、施策の目標の達成が全然できていない状態であれば、事業の結果が施策にリンクしていないのではないかと考えて、事業の改善や事業の入れ替えをするようなこともできますし、そういったことを目指して今回、後期事業実施計画を策定させていただいております。